



令和7年度
「ナナイロひだかサポーター制度」
職員向け説明会





制度概要



①ナナイロひだかサポーター制度とは

ナナイロひだかサポーター制度は、
地域や社会が抱える課題解決を目指し、
令和4年度に創設しました

当制度は地域・社会貢献活動へ
積極的に参加したい振興局職員を
「ナナイロひだかサポーター」として任命
し、活動をしています

②本制度における地域・社会貢献活動とは

(1) 副業 ー報酬を得て一次産業に従事ー

振興局長から許可を得た職員が、
日高地域の人手不足に悩む一次産業に
報酬を得て従事することで
地域貢献する取組



②本制度における地域・社会貢献活動とは

(2) 魅力発信－「ひだかの魅力」を発信－

日高地域の食・観光地・豊かな自然等の
様々な魅力を SNS投稿やイベントを
通じて発信する ことで関係人口の増加や
地域ブランドの確立を目指す取組

③背景

- 全国的に副業を認める企業や団体が増加している
- 公務員も副業が認められる環境整備が整ってきている
- 日高地域の一次産業における働き手不足という重要課題が深刻化している

③背景

先進事例

奈良県生駒市

2017年の制度導入以来小学校のクラブチームや
中学校の部活の指導に従事

青森県弘前市

2021年にりんご生産アルバイトに特化して
許可基準を明確化

山形県

2022年の制度導入初年度から40人の職員が
さくらんぼ作業に従事

④効果

事業者

- 繁忙期の労働力確保
- 負担減による時間の有効活用

職員

- 新たな地域の実態・魅力発見
- 地域社会・住民との新たなつながり



地域貢献をしながら、新たな知見・ネットワークを獲得し、道職員としての価値観の幅を広げることに寄与できる。

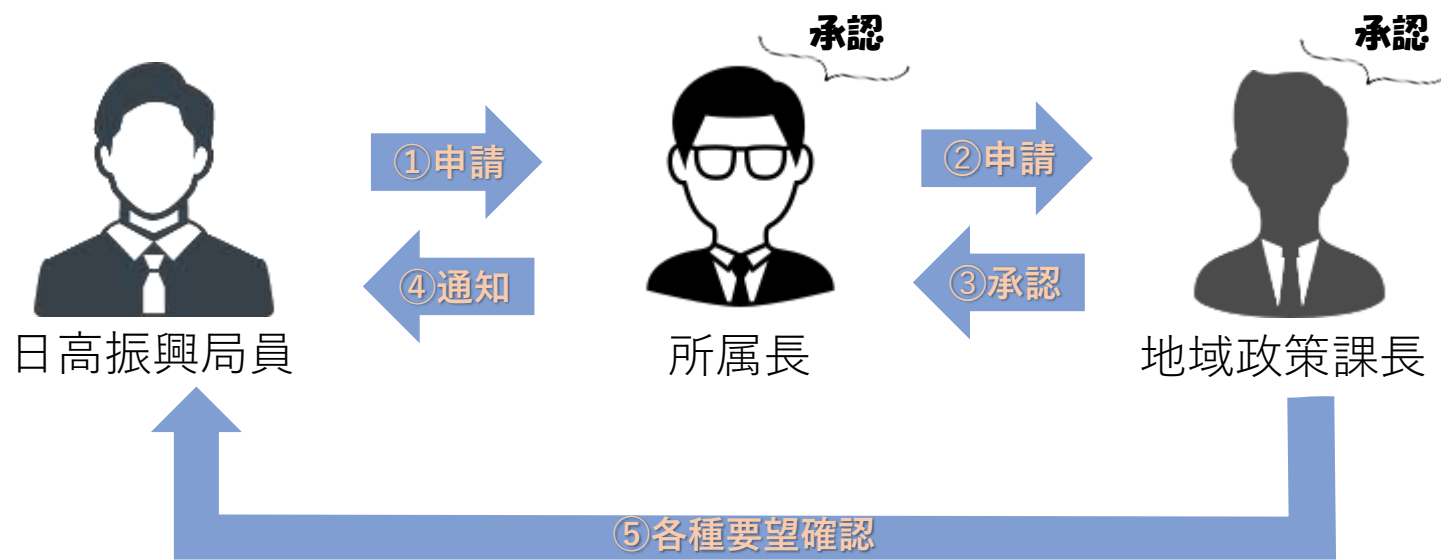


申請手続

ナナイロひだかサポーター制度の申請手続



ナナイロひだかサポーター登録までの流れ



Check!!

各所属長は部下職員の業務内容や体調を考慮して判断
地域貢献活動にふさわしくない行動等があった場合は
地域政策課長がサポーターの登録を取り消すことができる

ナナイロひだかサポーター制度の申請手続



副業までの流れ



①登録



北海道短期お仕事情報サイト
(道経済部運営)



農業アルバイトアプリ
デイワーク

②閲覧



日高振興局員

⑥通知

③申請



地域政策課

- ・局内のシフト調整
- ・一次事業者との調整
- ・実績のとりまとめ
- ・他地域への普及

承認

⑤承認



日高振興局長

④申請

承認



所属長

ナナイロひだかサポーター制度の留意事項



労働時間の制限

平日(通常勤務日)	一週間	一ヵ月
3時間以下	8時間以下	30時間以下

事業者の制限

活動先の事業者との間に利害関係がある場合は不可

所属部署によって一律に禁止するものではなく、利害関係の有無について都度所属長が判断する

副業の制限

本業に支障が出ていると所属長が判断した場合は不認可

サポーターへの申請及び営利企業等従事許可申請の際に所属長の確認を必要としている



活動内容

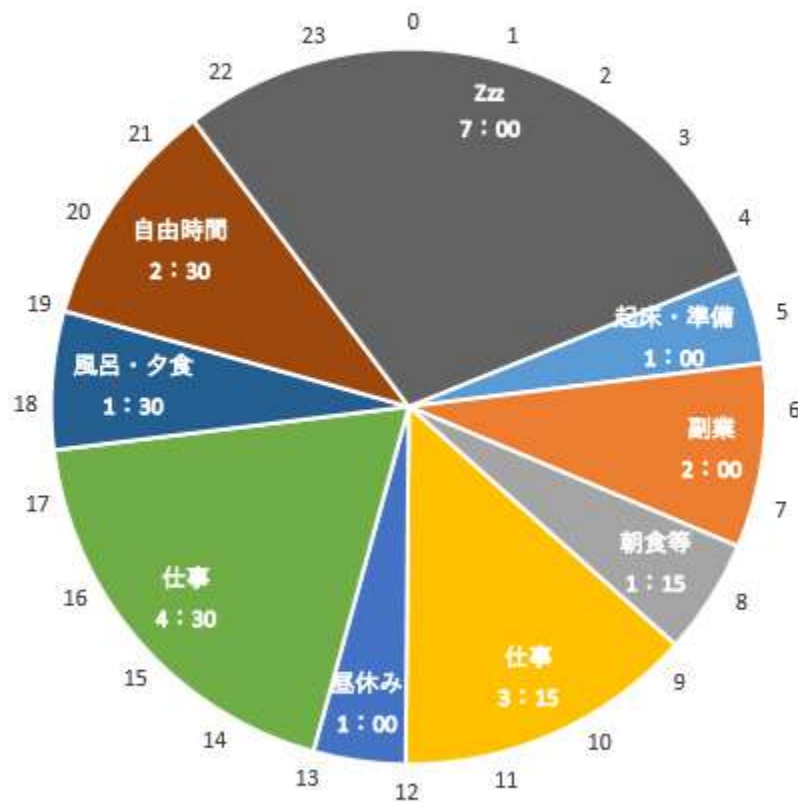
副業活動の様子（写真）



副業（夏いちご）

副業活動の一日の流れのイメージ

とあるサポーターの1日（イチゴ収穫編） ※平日



4:30 起床

5:15 イチゴ農園へ出発

5:30 いちご農園に到着 (作業: 収穫・苗づくり等)

7:30 作業終了

7:40 帰宅・シャワー・朝食

8:45 振興局で勤務開始

12:00 昼食

17:30 勤務終了・退勤

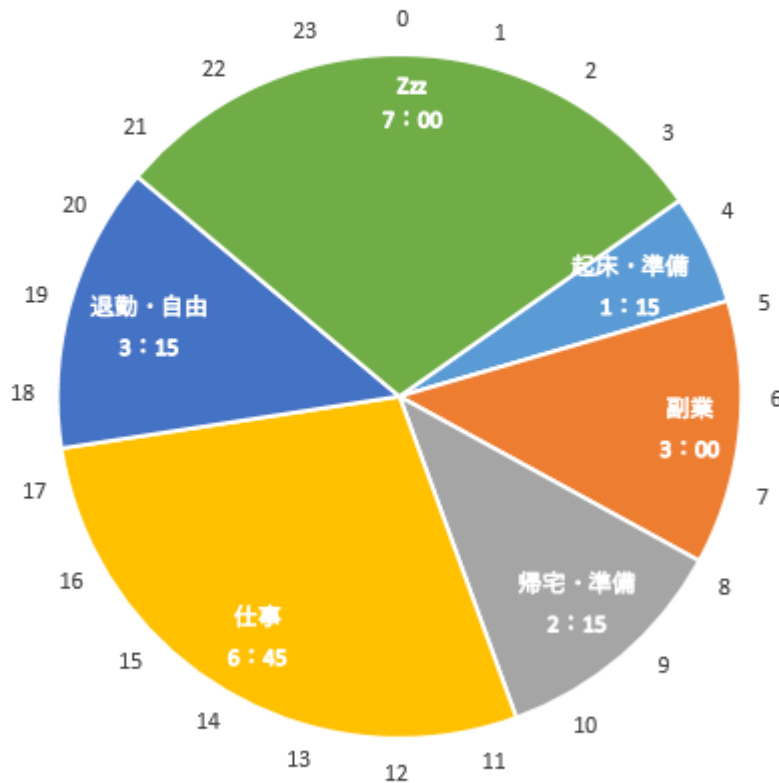
副業活動の様子（写真）



副業（日高昆布）

副業活動の一日の流れのイメージ

とあるサポーターの1日（昆布干し編） ※平日



- 3:45 起床
- 4:00 漁の有無について連絡
- 4:30 昆布干し場へ出発
- 5:00 昆布干し場に到着・作業開始
- 8:00 作業終了
- 8:30 帰宅・シャワー等
- 10:45 振興局で勤務開始
- 17:30 勤務終了・退勤

副業活動の様子（写真）



副業（軽種馬生産）

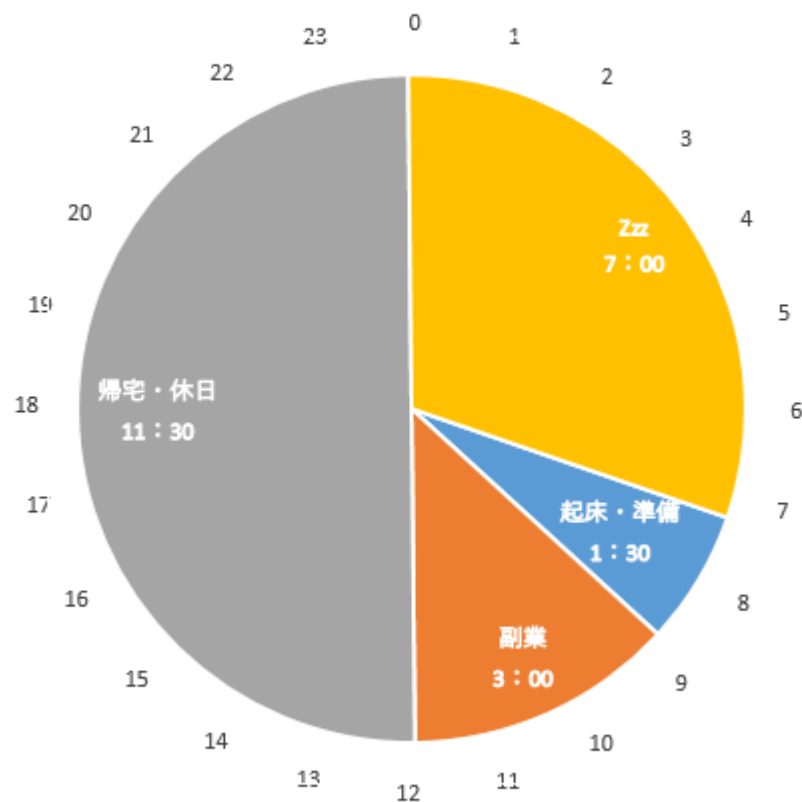
副業活動の様子（写真）



副業（軽種馬生産）

副業活動の一日の流れのイメージ

とあるサポーターの1日（馬編） ※休日



7:30 起床

8:30 牧場へ出発

9:00 牧場到着（作業：放牧・厩舎掃除・草刈り等）

12:00 作業終了

12:30 帰宅・休日



活動実績

ナナイロひだかサポーター制度の活動実績①

活動実績概要（令和6年度）

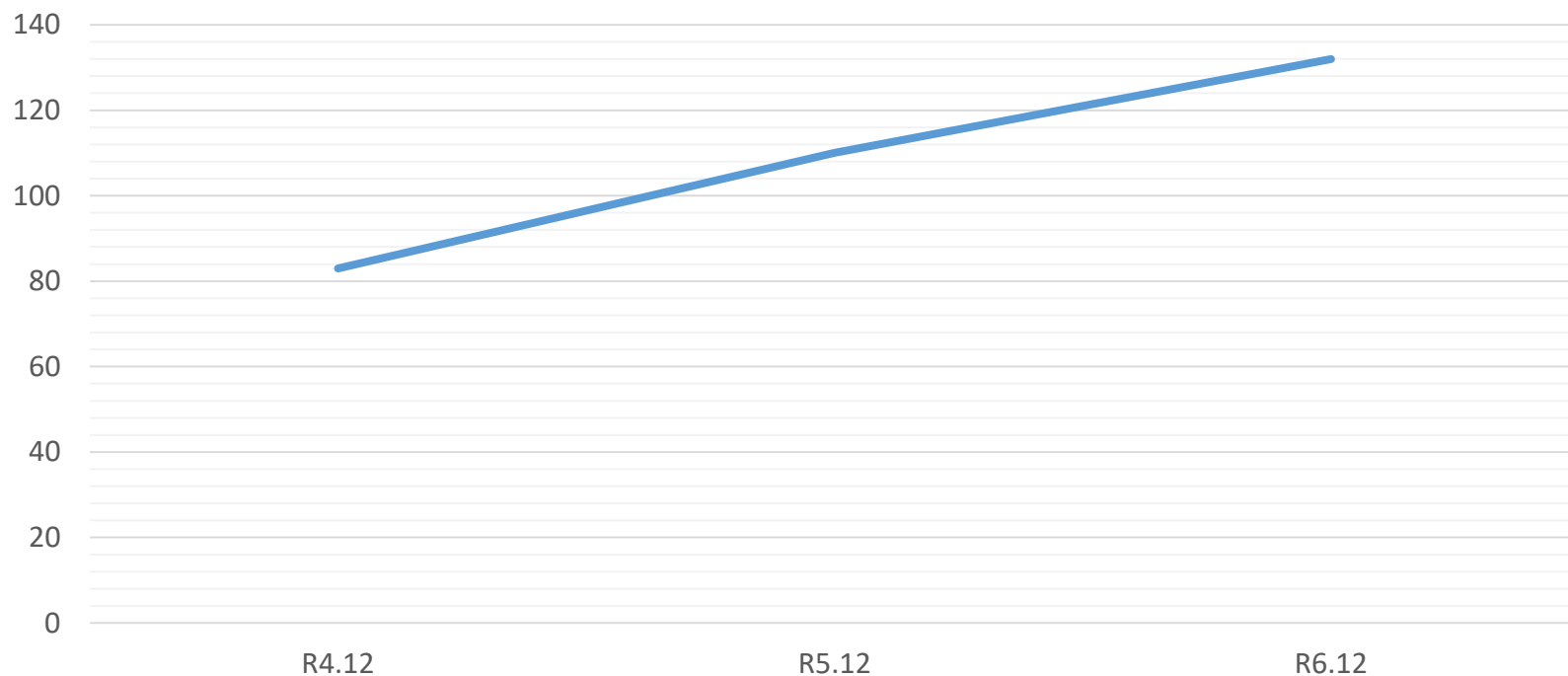
- **サポーター登録者数は132名（22名増）**
 - ▶ 制度の浸透に伴い、サポーター登録数は着実に増加
- **副業従事者は27名（9名減）**
 - ▶ 昆布の不漁などによる活動日数の大幅減により従事者数は減少
- **3地域で活動（2地域増）**
 - ▶ 浦河町のほか様似町、新ひだか町に活動地域を拡大
- **4業種で活動（2業種増）**
 - ▶ 夏イチゴ収穫と昆布干しのほか軽種馬生産やミニトマト収穫に活動業種を拡大

ナナイロひだかサポーター制度の活動実績②

ナナイロひだかサポーター登録者

110名(R5) → **132名(R6)**

22名増



ナナイロひだかサポーター制度の活動実績③

副業従事者数

36名(R5) → 27名(R6)

9名減

-従事内容内訳-

※延べ人数

	R4	R5	R6
夏イチゴの収穫	11名	24名	14名
昆布干し	12名	23名	2名
軽種馬生産	—	—	17名
ミニトマト収穫	—	—	1名

※うち6名（R4）、11名（R5）、6名（R6）は複数事業者に従事

ナナイロひだかサポーター制度の活動実績④

活動地域

1 町(R5) → 3 町(R6)

2 町増

-活動地域内訳-

R4・R5	R6
浦河町	浦河町
	様似町
	新ひだか町

ナナイロひだかサポーター制度の活動実績⑤

活動業種

2業種(R5) → 4業種(R6) 

-活動地域内訳-

R4・R5	R6
夏イチゴの収穫	夏イチゴの収穫
昆布干し	昆布干し
	軽種馬生産
	ミニトマトの収穫

ナナイロひだかサポーター制度の活動実績⑥

8 事業者とマッチング成立

1 者増

農 業

- ・いちご農園事業者①（浦河町）
- ・いちご農園事業者②（浦河町）
- ・いちご農園事業者③（浦河町）★
- ・いちご農園事業者④（浦河町）★
- ・ミニトマト農園事業者①（新ひだか町）★

漁 業

- ・昆布漁事業者①（様似町）★

軽種馬

- ・軽種馬生産事業者①（様似町）★
- ・軽種馬生産事業者②（新ひだか町）★

※★はR6新規事業者

ナナイロひだかサポーター制度の活動実績⑦

令和6年度副業従事者数（所属別）



所属		サポーター登録者	副業従事者
教育局	局長・次長	2	0
	企画総務課	4	1
	教育支援課	2	1
	運営支援室	1	0
	総務課	6	0
	税務課	4	0
地域創生部	地創B	1	0
	地域政策課	18	9
	危機対策室	3	2
保健環境部	保B、くら子B	2	0
	保健行政室	6	5
	社会福祉課	7	0
	環境生活課	4	0
	静内地域保健室	5	0

所属		サポーター登録者	副業従事者
産業振興部	産B、地産B	2	0
	商工労働観光課	5	1
	農務課	10	0
	農村振興課	9	4
	農業改良普及センター	4	0
	林務課	27	1
	水産課	3	0
	建設指導課	1	1
	日高森林室	4	2
	水産技術普及指導書	2	0
合計		132	27

ナナイロひだかサポーター制度の活動実績⑧

令和6年度業種別従事時間(7～12月)



業種	延べ日数	従事時間	1日辺り 従事時間目安	従事人数
農場	72日	140時間	1～4時間	13人
牧場	61日	218時間	3～6時間	20人
昆布	2日	6時間	2～3時間	2人

様々な広報媒体に掲載されました

一次産業を中心とした人手不足は全国的にも課題となっており、日高振興局が道庁で初めて職員の副業に取り組んだことで各種メディアに取り上げてもらいました。



新聞

テレビ

雑誌

広報誌

この他、全国の自治体や市議会、大学生から協力依頼がありました

地域ニーズに応じ副業

日高振興局 サポーター制度説明会



「新しいたむぎ」地域課題の町を中心に取り組んでき、解決に向け日高振興局が、たむぎも町や類似町も実施する「ナナイロひだかサポーター制度」の説明会が5月30日、町内地域保健室の会議室で開催され、職員20人が参加し、サポーター制度の趣旨を深めた。

説明会で、井浜雅晴地域政策課長は「今まで浦河方への関心が高まり、地域・社会貢献事業に積極的に参加したい職員が任命を受け活動する取り組みで、2023年（令和4年）に創設。制度を活用する中で、職員が自らドバックなどの効果が期待される。

昨年の登録者は110人で、夏いちごの収穫に24人、夏柑干しに23人が参加しており、今後も継続的に取り組んでいく考えだ。振興局として継続的な事業の展開につなげていく考えだ。

今後は6月5日に日高振興局4階講堂でサポーター制度説明会を開催し、登録受付を開始する。

▲令和6年6月2日
日高報知新聞

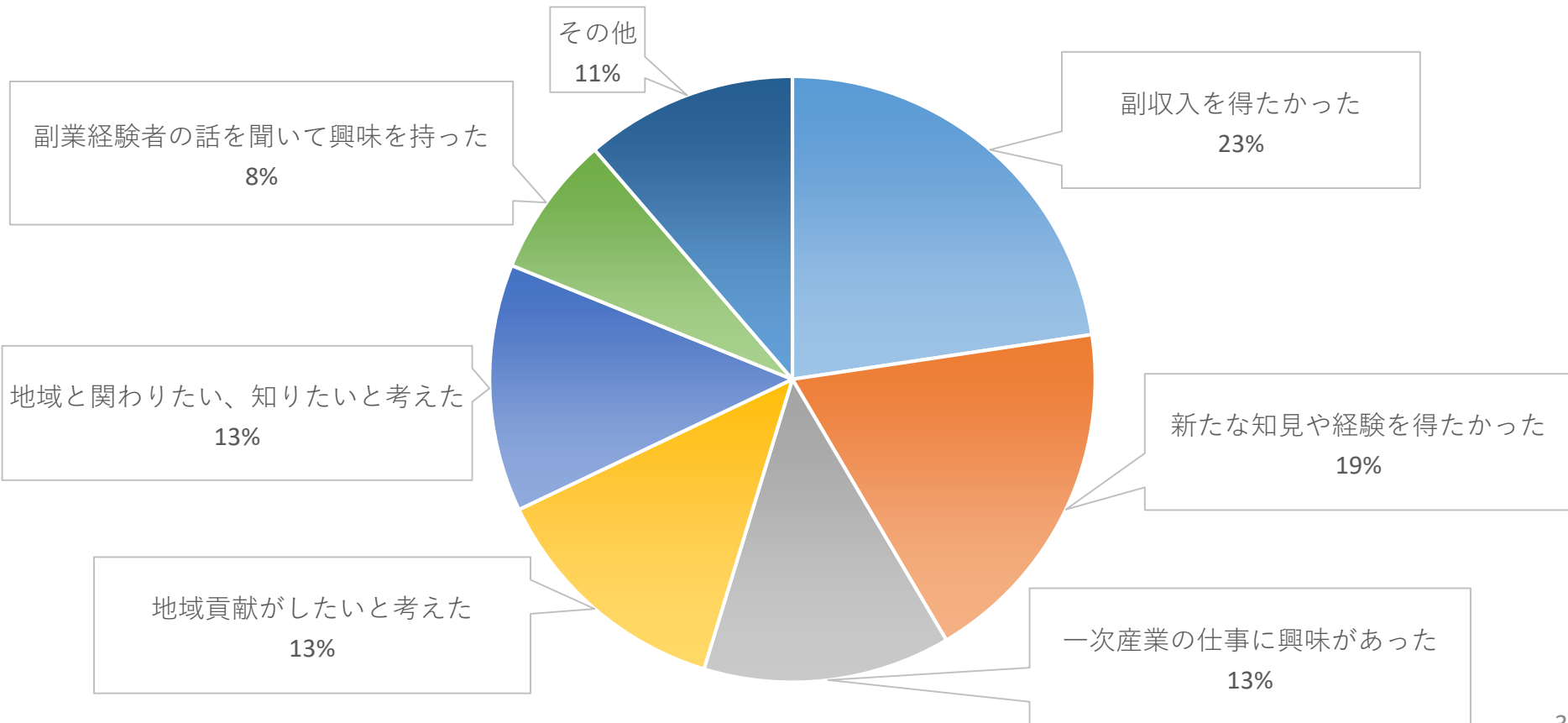


局内向けアンケート結果

局内向けアンケート結果

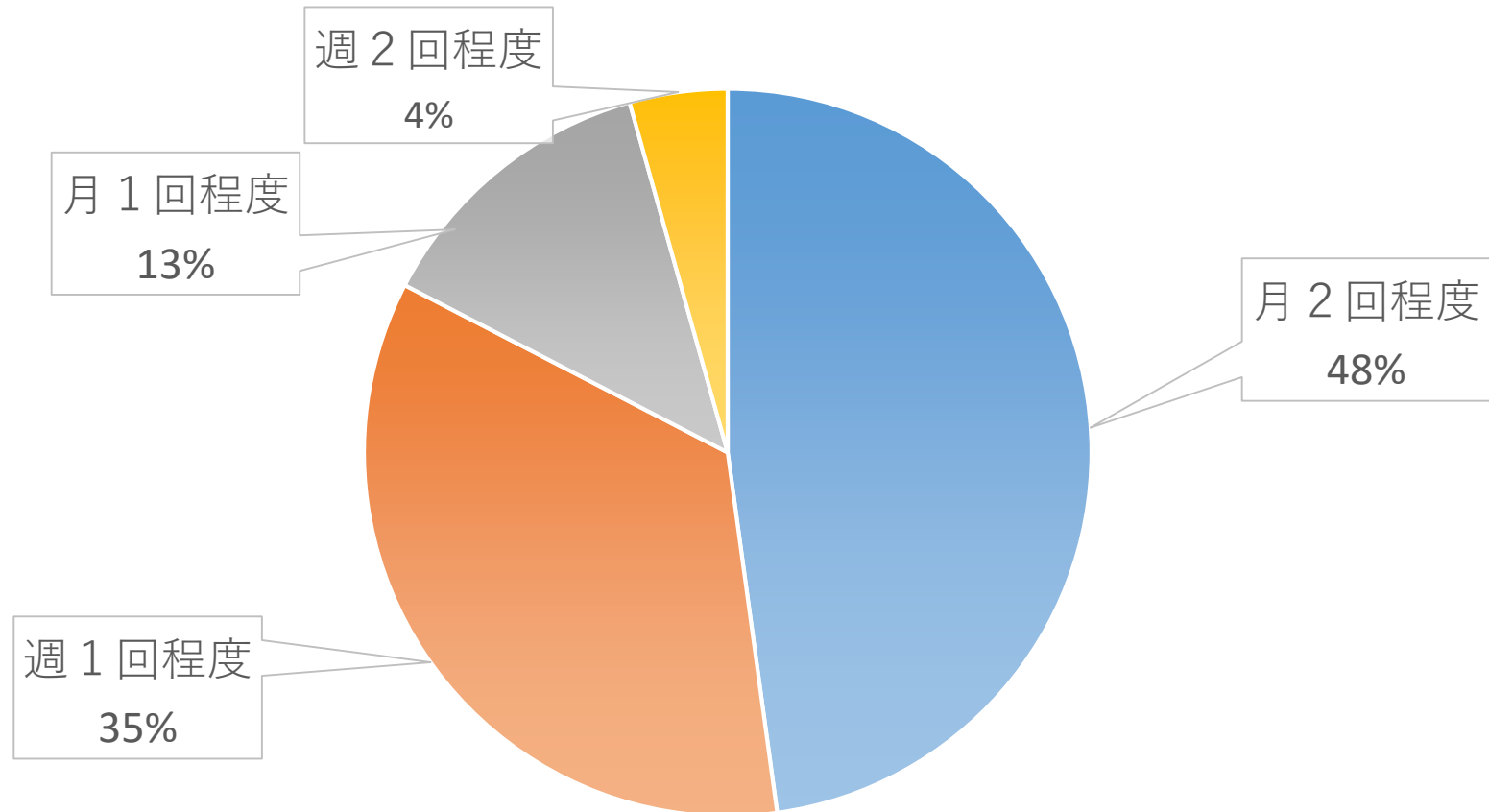
サポーター向け調査結果

(1) 副業に従事しようと思った動機について



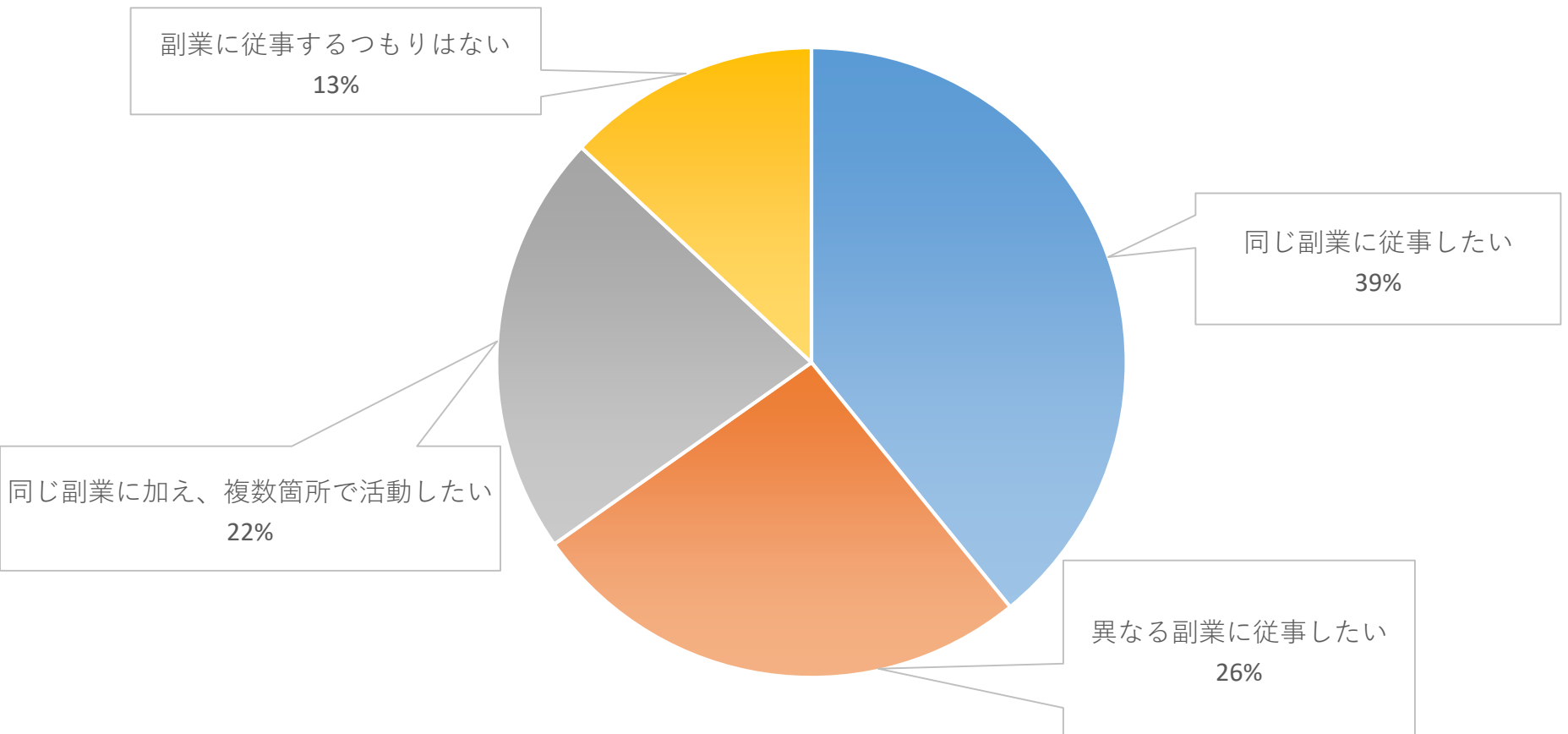
サポーター向け調査結果

(2) 副業に従事する理想の頻度について



サポーター向け調査結果

(3) 来年度の副業従事希望について



局内向けアンケート結果

サポーター向け調査結果のポイント

- 副業に従事しようと思った動機は 「副収入を得たから」との回答が最多数であった
- 副業に従事する頻度としては、「週2回程度」がちょうど良いとの回答が5割であった
- 来年度も日高振興局に所属すると想定した場合、引き続き副業がしたいと回答した職員は9割であった

サポーター向け調査結果のポイント

- 本業とは全く異なる仕事であるため、良いリフレッシュになった
- 今まで深く知らなかった一次産業の人手不足や地域の特産品に対する理解が深まった
- 事業者が仕事を一から丁寧に指導してくれて、とても働きやすかった
- 普段運動をする機会がないので健康増進に繋がると感じた

管理職向け調査結果のポイント

- 若手職員は、日高に愛着を持つ機会が少ないと感じるので、地域に溶け込める良い機会であると感じた
- 副業に従事した職員から運動不足の解消につながったり、生活リズムが整い、時間を有効活用できたなどの話を聞き、事業者と従事する職員双方にメリットがある取組だと感じた



事業者向けアンケート結果

事業者向け調査結果のポイント

- 「本制度を利用しようと思った理由」では、
「繁忙期の人手が必要だった」「振興局の副業に興味を沸かした」などの回答があった
- 「サポーター制度を利用した効果」では、
「人手不足が解消された」「人手不足が解消はされないが緩和された」「経營業務に専念でき、自分の時間を持つことができた」という回答があった



課題点



サポーターの全体数に対する実働人数が少ない

- サポーター登録者132名に対して、
実働に至った職員は27名（20.5%）であった
- 事業者からの求人数に対して、
日にちによっては対応できない場合があった



マッチングが成立しない距離的問題

- 副業の実績があった6事業者はいずれも浦河町内で振興局近郊の事業者であった
- 他町も行ってみたいとの声があったが、シフト制となると現実的に厳しく、マッチングに至りづらかった



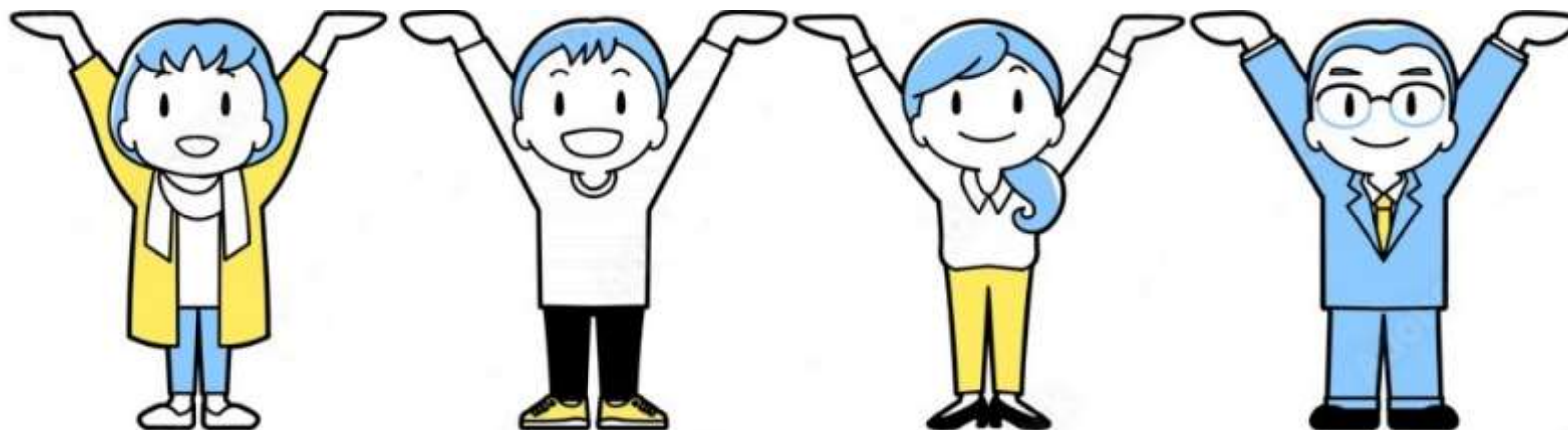
今後の展望

—ひだか地域の課題解決に向けて—



みんなで支える「持続可能な地域づくり」

日高地域の重要課題



地域おこし協力隊

広域連携

副業

官民連携

移住・ワーケーション

農福連携

高校生・若者